

1862年に現在の富山県で創業した佐藤工業は、今年7月に160年の節目を迎える。シンガポールでは1972年に事業を開始し、以来50年間多くの公共工事に携わり、インフラ整備の一翼を担ってきた。

シンガポールの土木工事では、77年に受注したベンジャミン・シアーズ・ブリッジをはじめ、サフティーリング・ブリッジ、ザ・ヘリックス&ベイフロント・ブリッジ、シンガポール初となるNATMによる道路トンネル、フォートカニングトンネルや大断面地下高速道路であるマリーナ湾岸高速道路を施工。また石油関連施設では2基のジュロン岩盤備蓄立坑（直径26m、深さ132m）に携わった。

地下鉄関連ではイーストウェスト線パシフィック駅・タンピネス駅・シメイ駅、ノースイースト線センカン駅・バンコック駅・ブンゴル駅、環状線ロロンチュアン駅、ダウンタウン線ベドック駅・マター駅・バンク

# プロジェクト便り

海外建設協会

◆シンガポール

## ヴィクトリアシアター&ヴィクトリアコンサートホール保存改修



改修工事を終えたシアター&ホール外観

佐藤工業

英知結集し歴史的建造物を再生

トムソン駅、トムソン線アップルード駅を施工し、現在はクロスアイランド線タビストック駅工事とセンカン・ブンゴルRT車両基地拡張工事に取り組んでいる。これまで携わったMRRT工事（地上・地下駅14駅、高架橋11・6ヶ、トンネル12・3ヶ）は、MRTシステム全体の約10%に及ぶ。

建築工事では、2005年完成の最高裁判所、06年完成のナショナルミュージアム、12年完成のマリーナ湾岸高速道路を施工。また石油関連施設では2基のジュロン岩盤備蓄立坑（直径26m、深さ132m）に携わった。

ヴィクトリアシアターは、1905年に英國ヴィクトリア女王を追悼して建設された。ヴィクトリアコンサートホールは、1905年に英メモリアルホールとして整備し、これらをつなぐように建つ時計塔の完成で一体となつた國家遺産である。

ヴィクトリアシアターでは、100年以上前に積まれたレンガ造の既存外壁を自立させたまま、内部を地下2階・地上3階のRC一部S造とする大規模な改修を行つた。既存壁直下での地下工事は綿密な計画の下、慎重に進められ、アンダーピニングで支持し既存壁の変位量をリアルタイムでモニタリングするなど、躯体工事が完了するまで、既存壁の維持管理には細心の注意が払われた。

また受変電装置、チラー室、タンク室等の設備室は、同じく国家遺産である旧国會議事堂が近接する隣接道路の地下に配置

シアター（上）とホールの内観



### 細心の注意払って施工管理

時計塔に設置されている時計は、最新の設備を備えた劇場として市民に愛されている。

ヴィクトリアコンサートホールは、内外観ともに既存モチーフを残しながら、木製床をコンクリート製の床に替え、鉄骨屋根を金属屋根に替えることで遮音性の向上を果たすとともに、空調・劇場設備を支持できる構造に建て替えた。柱壁のモチーフ修復には、厳しい要求基準を満たす厳選された左官材料と塗装を通して技能労働者が作業に当たった。コンサートホール

シンガポール国民や多くの観光客を今も魅了し続けている歴史的建造物の改修に、当社が携わったことは光榮である。これからも、当社の英知を結集してシンガポール社会に貢献していきたい。

（建築海外事業部・加藤純）